

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 4月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2277101446
法人名	有限会社 政 経
事業所名	グループホーム北寺島の家
所在地 (電話番号)	静岡県浜松市北寺島町206番地の27 053-413-3220
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年3月12日

## 【情報提供票より】(平成20年2月15日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成15年1月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤 19人, 非常勤	人, 常勤換算 12.6 人

### (2)建物概要

建物形態	単 独	新 築
建物構造	鉄 骨 造 り	
	3 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,500 円	

### (4)利用者の概要(平成20年2月15日現在)

利用者人数	27 名	男性	10 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 867 歳	最低	66 歳	最高	100 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	みのりハートクリニック・加藤歯科・松野歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

系列グループホームの中の範となるホームとして、管理者と職員が協働しているホームである。管理者は指導的立場にあり、留守がちではあるが後進の育成の機会と捉えており、3人のユニットリーダーの連携良く、職員同士もフォローしあってホームの理念「私たち職員はあたたかい手 思いやりの心を目指し 日々努力を重ねていきます。」の実現に向けて励んでいる。開設時から続いている小学校との交流は利用者の楽しみであり、近年は小学生向けのキャラバンメイトの講座を催して、子供から家庭へと認知症について理解を広める啓蒙の機会ともなっている。法人のバックアップを活用し、資格取得や研修、レポート提出等自己啓発も盛んな中で、職員が更に実力をつけて利用者や家族にどこまで喜んでいただけるホームとなるか楽しみである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価からの第一の改善について、日曜日と朝食以外は給食利用であった食事に関し、職員の話し合いと入念な準備により毎食の手作りが実現した。3ユニットが協力し合っ て介護が手薄にならない工夫を重ねている。何よりも出来ることを手伝いながら利用者が喜 んでいる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価記入は管理者からリーダーに任されたが、職員から全員で取り組もうとの提案がさ れたことから各ユニットごと職員に分担、記述してもらった。職員ヒアリングについても管理者 からの要望で当日勤務職員全員に実施しており、ホーム全体で評価を活かそうとの取り組 み姿勢が顕著であった。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2カ月に1回開催されている。利用者・家族・管理者・計画作成担当者・職 員・自治会長・市職員・ホームドクター・地域包括職員等や時には他ホームから見学の職員 も交えて、提案されたテーマについて話し合っている。回を重ねるうちに家族からホーム利 用以前の様子が語られたり家族としての悩みも明かされ生活歴の把握や家族同士の連帯 感を生み出している。今後、防災や避難訓練についても具体的な話し合いが予定されてい る。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時や運営推進会議の折に意見を聞きだして迅速に対応している。家族アン ケートでは多くの返信を頂くことができ、多数の項目で満足度の高いことが確認され、「面会 時に本人の変化に気付くと既に良く対応対処してくれており感謝している」との意見も見ら れた。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩で行き逢う近所の方から声かけしていただいたり、利用者の好きな梅干やお花を届け ていただいたりと暖かい交流を持っている。納涼祭は近隣の方の手伝いやポスターを貼り出 してくれる商店、駐車場を貸してくれる病院等協力があり、また通りがかりの方も祭りに参加 するなど地域と一体の行事となっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として「私たち職員はあたたかい手 思いやりの心を目指し 日々努力を重ねていきます。」を掲げている。グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられる以前からその重要性を認識し実現に励んでいる。	○	今後、理念見直しの機会がある場合には、利用者と地域の交流を支えている職員の思いを言葉に表わして付け加えることをお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念実現の為、管理者は日々、介護の本質について暖かく時に厳しく話している。利用者には良いホーム作りが他のグループホームの範となるホーム作りとなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の好きな梅干やお花を届けてくれたり散歩の折に気軽に声かけをしてくれる暖かい交流を持っている。開所時より地元小学校6年生が毎年訪れ歌やゲームを利用者と共に楽しんだり、また子供たちにはキャラバンメイトの話やケアに関する質問に答えたりして双方に有意義な活動をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は定期的な評価受審を、普段気付かないことを意識できる機会と捉えており、自己評価は各ユニットリーダーが職員に分担、記述してもらった。職員ヒアリングについても管理者からの要望で当日勤務職員全員に実施しており、ホーム全体で評価を活かそうとの取り組み姿勢が顕著であった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームについて、認知症とは？成年後見制度、虐待について等々を地域委員や家族を交えて話し合っている。回を重ねるうちに家族からホーム利用以前の様子が語られたり家族としての悩みも明かされ生活歴の把握や家族同士の連帯感を生み出している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する介護サービス連絡協議会のグループホームと小規模多機能型事業所の分科会に参加して情報交換をしている。また、消防署や交番等公共の資源を活用して利用者の安全な暮らしの広がりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が面会の際には最近の暮らしぶりや健康状態等報告しており面会に来れない家族には手紙でお知らせしている。ホームが駅から近いことから家族に駐車場を提供したり利用者の友人が定期的に面会に来たりといつでも気軽に立ち寄れる環境づくりにより、十分な情報交換が出来るよう配慮している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議の折に意見を聞きだして意見には迅速に対応している。家族が「面会時に本人の変化に気付くと既に良く対応処してくれており感謝している」とのアンケートの意見も見られた。	○	意見や要望は家族にはなかなか言い出せないこともある。家族や利用者が声を出さないと改善されない場合もあるので些細なことこそ声に出していただくよう引き続き取り組みを願いたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動により利用者にダメージを与えることを逆に活用し、職員がどのユニットの利用者とも馴染めるよう日頃からユニット間の交流をしている。他ユニットの職員が、毎日共に過ごす職員が見過ごしている利用者の変化に気付くという効果もある。新職員にはチームリーダーが付いて役割分担や日課について説明している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修システムにより段階に応じた受講の機会がある。また、レポート提出により褒賞がいただけるなど自己啓発に楽しみも加わっている。職員の資格取得も積極的に支援している。内部勉強会も毎週行なわれケアに関する身近なテーマについて学んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は系列グループホームの交流会に参加、その折に職員と共に他ホームを訪問して交流の機会を作っている。ホームの運営推進会議に他ホームから見学に来ることもある。	○	他ホームの見学は自らのケアを確認したり情報交換によりサービスの質の向上に繋がることも多いことから実現に向けて取り組んで戴きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時、出来るだけ利用者の要望を聞き取るようにして、これまでの生活が継続できるよう支援している。気が合いそうな方や共通の趣味を持つ方を紹介し安心して馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩であり、社会の第一線で活躍してきた方もいて職員は「自分も行く道、学ぶことは多く、お年寄りと接するのが楽しい」、「料理を教えてもらったり、美味しいとっていただけるのが嬉しい」と尊敬の念を持ちつつ利用者と過ごす喜びを語っていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや日々の介護の中から本人の要望や思いを汲み取っている。運営推進会議に出席した家族のお話からヒントを獲てカンファレンスで検討し本人の意向に出来るだけ添えるよう取り組みも見られた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	経過記録やバイタル表に利用者の日々の様子を記録しており、これを基に、家族・ホームドクターと連携して、担当者会議で話し合い介護計画を作成している。職員会議や勉強会の際のカンファレンスでも職員の気づきを出し合って重要なことは申し送りノートに記録して全職員に周知している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在介護計画に対するモニタリングは毎月行われている。見直しは3ヶ月ごとを目指しているが全利用者の見直しまでには至っていない。利用者の状態変化が見られた場合は随時の見直しがされていた。	○	月毎にモニタリングが実施されていることから、見直しまで作成されるよう工夫が望まれる。変化がない場合は「変化無し」の表示により経過を明確にされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームドクターへの受診を付き添っている。地域に向けては小学生へのキャラバンメイトの講座や中学生の体験学習の受け入れもされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はかかりつけ医、ホームドクターを希望で選択している。ホームドクターは24時間対応で毎月往診もお願いしており、必要があれば職員に褥瘡の手当て等介護上の注意点についても説明してくれる。医療の対応には家族からも安心の声があった。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは既に10名の看取りに携わらせていただいている。家族の希望、ホームドクターの後押しに加え管理者の看取りに関わる職員のメンタル面でのメッセージを受け止めていた職員からの声もあった。個々のケースにより良く話し合い方針を共有している。	○	経験の中からホームとして看取りに関する方針等取り決めはあるが書面にしたものが出来ていないので看取りの指針及び同意書等の作成が待たれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合った言葉かけで対応しており、プライバシーを損ねるような場面は見られなかった。ヒアリングの際に職員から「粗末な接し方は決してしない、それはまた利用者から手ごたえを感じられる」との意見を聞くことができた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者は職員に利用者の行動したい気持ちを摘み採らないよう、時間がかかっても利用者のペースを職員が待つことが大切であることを説いており、起床や食事、外出も利用者の希望に添うよう支援している。		

静岡県 グループホーム北寺島の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食から準備時間をかけてついに手作りの食事が毎食いただけるようになった。調理の匂いさえも利用者は楽しんでおり、食事中も「美味しいね」を連発していた。動きが自由でない利用者も味見に参加して満足そうな表情であった。	○	食器は軽くて割れにくいものが使用されていたが、家庭的な瀬戸物の食器でいただく機会も作られるよう望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	4人が同浴できるスペースがあり、気の合う方同士だったり、ゆっくり入りたいなど、個々の望む方向で入浴を楽しんでいた。	○	浴槽は大きく作られて中の良い利用者同士の入浴を楽しんでいるが、ゆったりした入浴への工夫をお願いしたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月行なわれるホーム周りの清掃やごみ出しなど出来る利用者は参加し、小学校児童との交流や季節の行事も利用者は楽しみにしている。習字、ちぎり絵、コーラス他、それぞれが楽しみながら日々を過ごせるよう支援しており、習字では評価をいただける機構に出展して受賞したり、張り合いの探求につとめている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町中にありながら散歩コースには恵まれており天気の良い日には散歩を楽しんでいる。買い物やドライブ、季節ごとの遠足も掲示された写真から窺えた。また、家族との外出や自宅への外泊も支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入浴時等職員の配置が薄くなる場合には家族了解の下施錠しているが、自由に行動していただけるよう鍵をかけない暮らしを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て様々な場合を想定した定期的な避難訓練を実施し、負いひもや備蓄用食糧も用意されている。運営推進会議委員等の協力による防災訓練は予定されたが現在延期となっている。	○	緊急時の避難については責任感が強いほど不安が出ると思われる。不安払拭の為にも話し合いや訓練の継続をお願いしたい。水の備蓄も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昨年までの管理栄養士の作る献立による給食或いは食材購入の経験から職員は概ね利用者に適切な食事量を把握しており、野菜中心のバランス良い献立が作られていた。レタスも茹でて細かく刻む等食べやすくされていた。食事摂取に加え水分摂取量についても詳細に記録されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室トイレ等は清潔が保たれており、居間は片付けすぎで思わず落ち着いて過ごせる雰囲気であった。大きな通りに面しているが騒音もなく、南側に駐車場を配しているため日当たりも良く居心地よく過ごせる空間となっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆箆や椅子、飾り物等永年、使い慣れた家具や備品が持ち込まれている。家族や職員によりタンス内容が分りやすく表示されている居室もあった。家族の写真が飾られ利用者が安心して過ごせる居室作りがされていた。		